

マーメイド号の特徴について

沢地 繁 (サワジデザイン代表/セーリングヨット・モーターボート設計/*)

イギリスで 1950 年に JOG(Junior Offshore Group)というレース組織ができ、小型の外洋ヨットでのレースが盛んになりました。

日本でもこのクラスの艇が多く作られ、外洋ヨットレースで活躍するようになりました。

また、比較的良質の耐水合板が手に入るようになったこともあり、ディンギーでは一般的だった合板が外洋ヨットの船体にも使われるようになりました。

前後のオーバーハングを小さくして水線長を確保した小型で軽量の合板製クルーザーは比較的安価で高性能だったため、日本の外洋ヨットの普及に大きな貢献をしました。

最近はより量産に向けた FRP 製に取って代わられましたが、合板製クルーザーは自作向きの構造方式として今でも造られています。

堀江謙一氏の「マーメイド」はこの時代に生まれた代表的な合板製小型外洋ヨットの 1 つです。

1962 年に合板のヨットとしては初めて太平洋を単独横断し、合板製クルーザーの性能を証明することになりました。

「マーメイド」は横山晃氏設計の「キングフィッシャー」というモデル名の 19 フィートのスループで、多くの同型艇ができています。

「キングフィッシャー」の 1 号艇は鹿島郁夫氏の「コラーサ I 世」で、1965 年に大西洋単独横断に成功しています。

(*)サワジデザイン紹介

- ワンオフ及び量産用のヨット・パワーボート・レジャービークルの設計。
- マリーナ・浮桟橋・海洋構築物の設計。
- 国産・輸入艇の船検用提出図面・計算書作成。
- 各種ソフトウェアの作製。